

関東を直撃した台風は過ぎましたが、涼しくなりませんね。余りの暑さに、フィールドに出るのも躊躇われますが、多摩川の河川敷ではギンイチモンジセセリやミヤマチャバネセセリの姿も見られ、秋の気配が感じられる様になりました。

最近、東京湾沿いのソテツにも注意していますが、未だ被害された新芽は見ていません。クロマダラソテツジミは、今年は、来るのでしょうか？ (総務幹事：田中和夫)

【8月例会】

日時：平成31年9月10日(火)(第2火曜日) 午後6:30~8:30

場所：吉祥寺、武蔵野公会堂第1・第2合同会議室

・講演：松田陽二氏

「北部インドにおけるシボリアゲハとブータンシボリアゲハの生態」

・講演：森紘一氏

「モンゴル9回目の遠征とグアム のチョウ」

【今後の例会予定】 午後6:30~8:30

10月8日(火)(第2火曜日、武蔵野公会堂第1・第2合同会議室)

講演：朝日純一氏「私の蝶屋人生とフジオカイズム」

11月19日(火)(第3火曜日、武蔵野公会堂第1・第2合同会議室)

講演：須黒達巳氏「ハエトリグモ」

講演：川手洋子氏

12月8日(日)(第2日曜日、パレスホテル立川)

忘年会、競り会

1月21日(火)(第3火曜日、武蔵野公会堂第1・第2合同会議室)

2月18日(火)(第3火曜日、武蔵野公会堂第1・第2合同会議室)

【連絡事項】

1. 「多摩虫73号」:

皆さま、投稿ありがとうございました。

既に入稿済ですので、今月20日頃にお届けできる予定です。

2. 「新入会員の紹介」:

川田 智子(カワダ トモコ): E-Mail: mekurahebi@yahoo.co.jp

住所: 〒187-0044 東京都小平市喜平町1-6-12-10

* 鱗翅目の幼虫、イモムシ毛虫が好きで、習っている植物画教室でネタにしています。

小川 容(オガワ ヨウ): E-Mail: p16563329@docomo.ne.jp

住所: 〒168-0073 東京都杉並区下高井戸4-18-10

* 子供の頃から蝶が大好きで、時折撮影しています。

大矢 丈一郎(オオヤ ジョウイチロウ): E-Mail: toramaru77@brown.plala.or.jp

住所: 〒192-0912 東京都八王子市絹ヶ丘1-31-8 (小学4年生)

* 好きな虫: カラスアゲハやミヤマカラスアゲハ等のアゲハ蝶類。

3. 『新着交換会誌の紹介』

下記の交換会誌が届いていますので、9月例会にて回覧いたします。

尚、本図書も貸し出し対象としますので、貸し出し希望の方はお申し出ください。

交換会誌

- | | | | |
|-------------|-------|--------------|-------------|
| 1. 沖縄昆虫同好会 | 琉球の昆虫 | No. 43 | |
| 2. 神奈川昆虫談話会 | 神奈川虫報 | No. 198, 199 | |
| 3. 同上 | 花蝶風月 | No. 172, 173 | (渉外幹事：福田幸雄) |

『グループ多摩虫 8月例会』 実施報告

8月20日の例会当日は午後には東京西部一帯で激しい雨が降りましたが、会員並びに「子ども昆虫作品展」の表彰式に出席された子供たちやご父兄の皆さん、合わせて40名の方々が出席されました。

1. 「子ども昆虫作品展」表彰式

冒頭、大野代表より、「新たな取り組みとして高尾駒木野庭園で作品の一般公開を行うこととして公募したところ20名から応募があり、レベルの高い作品が集まった。9名の審査員で厳正に審査し、11点を表彰することとした。会としては社会貢献活動の一つと位置づけており、今後も続けていきたい」との挨拶があり、その後表彰式に移りました。11名の受賞者のうち、代理の方も含めて10名が出席され、一人ずつ壇上に上がって大野代表から表彰状と記念品を受け取られました。また、審査員からのコメントも各受賞者に渡されました。最後に表彰者と保護者全員で記念撮影を行いました。受賞者については、ミニたまむしNo. 497を参照してください。

2. 後藤 健氏講演「森と人との伐っても切れない繋がり」

まず、関東平野周辺の森について、現在はナラやクヌギなどの落葉広葉樹が多いが、元々はシイやカシ、タブなどから成る常緑の照葉樹林であり、ヒトが薪炭や落葉を採るために森をつくり変えてきたとの説明がありました。そして、同じような照葉樹の森はヒマラヤ山麓からミャンマーやタイの北部、中国の南部を経て日本にまで広がっており、そこでは、味噌や納豆、モチや赤飯、茶、米麴酒、養蚕、漆塗、鵜飼、柱と梁の住居、山岳信仰など衣食住全般にわたって共通の文化が見られるとの話がありました。日本の文化というのは決して日本独特のものではないとのことです。

続いて、庄内平野を例に、8世紀に国府が設けられ、荒れ地や川の氾濫原、海岸砂丘脇の湿地へと水田が広がっていった歴史が、地名などから分かるという話がありました。かつては、湿地や砂丘にはアイヌの人々が、水田の周囲には南から移住してきた人々が、一部には朝鮮半島から来た人々も暮らしていたかもしれないとのことです。そして、海岸砂丘に今のようなクロマツの森をつくらせた人々の苦労が写真などで紹介されました。ヒトは豊かな生活を求めてどのように自然をつくり変えてきたか、時代とともに景観や人々の暮らしがどのように変化してきたかを想像してみることはたいへん重要だということです。

次に、12,000年ほど前の新石器時代には、伊豆の御蔵島の黒曜石が鉄などの材料として日本各地やロシアの沿海州にまで運ばれていたこと、1,200年ほど前の奈良時代には、防人として日本各地から人々が動員され、九州北部には常時2,000人もが駐留していたこと、120年ほど前の明治時代には、海女さんたちが小舟で志摩半島から朝鮮半島まで行き来していたことなどが紹介されました。かつて、日本人は驚くほど活発に国の内外を行き来しており、支配者だけでなく庶民の多くも豊富で現実的な国際感覚をもっていたのではないかとということです。

続いて、マレーシアのサラワク州を例に、衛星画像とヘリコプターからの写真などを使って熱帯林がオイルパームのプランテーションに変えられている様子が紹介されました。オイルパームからつくられるパーム油は日本にも大量に輸入され、食品や洗剤、化粧品など様々なものに使われていて、熱帯林の減少は決して私たちの暮らしと無縁の問題ではないとのこと。日本では食品の2割が無駄に捨てられていて、これを減らすだけで熱帯の人々の生活や地球環境の保全になくてはならない熱帯林を少しでも守ることにつながるとの話がありました。

熱帯林は、40億ヘクタール程度ある世界の森林の約4割を占めていますが、農業開発、インフラ整備、都市化、鉱山開発などにより横浜市の面積の150倍くらいの熱帯林が毎年なくなって、このままではやがて半減してしまうそうです。熱帯林には国や企業、住民などの様々な利害が複雑に絡まっていて、それをどのように守り有効に活用していくかが世界的に大きな論議となっているとのこと。正確な情報と科学的な知見に基づき、多様な利害関係者が参加して国際的なルールをつくり、各々が責任をもって取組を進めていくことが重要とのことでした。

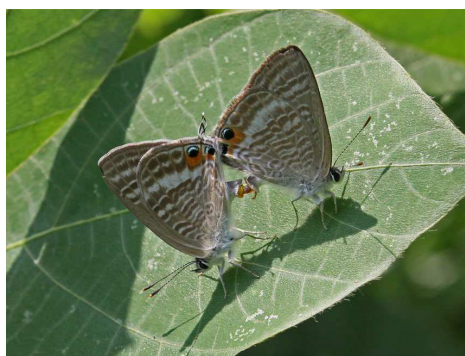
3. 親子合宿の報告

坪池幹事より、7月31日～8月1日に開催された親子合宿について簡単な報告とご協力いただいた会員へのお礼の言葉がありました。正式な報告は、後日、坪池幹事からMLにて行われるとのことでした。

最後に、司会役の宮内幹事より、会の冒頭に朝日純一氏からサハリンの近況などについてビデオの映写をしていただく旨の案内をしたが、時間がなくなってしまったので次回以降にお願いしたいとのことがありました。

例会の後、「さかなや道場」で懇親会が賑やかに開催されました。 (企画幹事：後藤健)

『8月・9月の蝶』：上段＝多摩川河川敷（9月2日）、下段＝川上村、富士見町（8月18日）



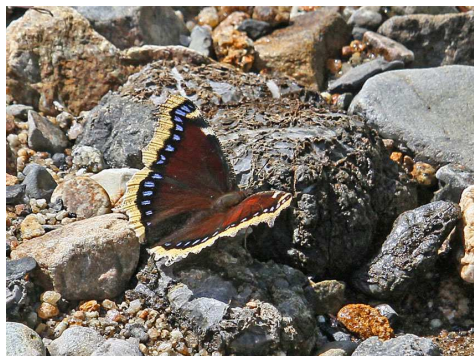
ウラナミシジミ



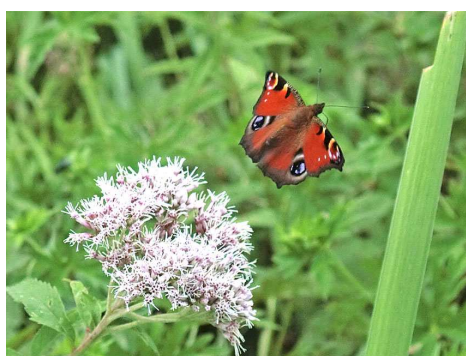
ギンイチモンジセセリ



ミヤマチャバネセセリ



キベリタテハ



クジャクチョウ



スジボソヤマキチョウ

8月例会

8月20日



例会の風景



二次会の風景